

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 佐藤英人	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 ○教育上の成果に関する事項 ・本年度は、初年次ゼミ、演習Ⅰ、演習Ⅱ、都市地理学、都市地理学特論（大学院）を担当した。学生が予習できるように、毎回、レジュメを Dropbox で事前配布するように努めた。授業中はパワーポイントを利用して、図表や写真を提示するなど、イメージのしやすい授業運営を心がけた。加えて、学生との対話を大切にし、机間巡回の際、積極的に問いかけを行った。その結果、「授業に関する学生アンケート（前期）」では、初年次ゼミ（履修者 12 名）の総合評価が 94.5 となり、大学全体の平均点（82.2 点）を大きく上回った。特に教員の話し方と授業教材の適切さの項目で高い評価を得た。 ・ゼミ内定生（2 年生）を対象としてプレゼミを実施した（隔週火曜日 5 時限）。プレゼミでは学生の興味関心に基づき、リチャード・フロリダ 2014『新 クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる』、ダイヤモンド社、488p を輪読した。 ・演習Ⅰではグループ研究をおこなった。テーマは高崎市郊外住宅地の人口減少と高齢化であり、南陽台住宅地で質問紙調査（2016 年 11 月 19 日）を実施した。成果の一部は 2016 年 11 月 3 日の三扇祭プレゼンテーション大会で発表し、見事優勝に輝いた。 ・机上の議論のみならず、本ゼミでは国内外のエクスカッション（巡検）を通じて、地域を観察する能力を養っている。本年度は東南アジアの地域的ハブであるシンガポール巡検（2016 年 9 月 5 日～9 日）を実施し、大変有意義な巡検となった。 ・学年や大学の垣根を越えた取り組みとして、高経大×早大合同ゼミ（2016 年 8 月 25 日～26 日）をおこなった。一日目は本学 142 教室にて 3 年生のグループ研究、4 年生の卒業論文中間発表をそれぞれ実施した。その後、高崎ワシントンホテルに会場を移し、交流を深めた。二日目は高崎市内の巡検、昼食を取りながらカフェあすなろにて高崎市活性化に関するグループワークをおこなった。総勢約 40 名の参加者があり、いずれの企画は盛況であった。 ○研究上の成果に関する事項 1) 著書・学術論文等 ・佐藤英人 2017「「高崎発のものづくり」と産学官連携：山崎製作所」、高崎経済大学地域科学研究所編『地方都市における製造業の地域的展開と現状—群馬県高崎市における中小企業の躍動』（分担執筆）、日本経済評論社、pp133-147 2) 学会発表・講演会等 ・佐藤英人「東京大都市圏における集合住宅取得者の住居移動—新築と中古の比較を通じて—」、日本地域政策学会【大阪大会】第 1 分科会（都市）、関西大学高槻キャンパス、2016 年 7 月 10 日 3) 競争的研究資金等 ・人口減少社会が直面する郊外住宅地の選別化に関する研究、日本学術振興会平成 25～28 年度 科学研究費補助金（基盤研究 C）、課題番号：25370920、交付金額：2,400 千円、研究代表者（継続）	

○職務上の成果に関する事項

1) 学外業務

- ・日本地理学会 理事（2016年6月－現在）
- ・日本地理学会 財務専門委員会 副委員長（2016年6月－現在）
- ・日本地理学会 編集専門委員会 委員（2016年6月－現在）
- ・日本地域政策学会 関東支部 事務局長（2016年2月－現在）

2) 学内業務

- ・入試検討委員会の委員として定例会議に出席し、入試改革および合否判定等に参画した。広報活動の一環として、大学オープンキャンパスでは、模擬授業およびゼミ紹介のパネル展示をおこなった。加えて出前授業では、群馬県立中之条高校、茨城県立水戸第三高校、同県立勝田高校へそれぞれ出講した。
- ・ラジオ高崎「ラジオゼミナール」に、「現代日本の社会と地域を問う「人口減少・少子高齢化社会における住宅問題」（2016年9月10日、17日放送）と題して出演した。

2 その他の事項 特になし。

3 次年度以降の計画・抱負

教育上の計画としては、新たなグループ研究「高崎市の中心商店街に関する実態調査」を立ち上げる。すでにプレゼミで既存資料の収集やデータ分析に着手しており、新年度より具体的な調査を開始する予定である。また、授業改善にも積極的に取り組み、教員－学生間、学生間の双方向教育（集団討論の時間を増やすなど）を実践していきたい。